

今、如來の出生は、當然奇蹟的でなければならぬ様に考へられてゐても、其の説明に費すまでもない。要するにその父は、之を淨飯王として了つてゐる。而して『世尊降臨』(丙附圖第十六、四十二圖)の銘があるバルハットの圓形彫刻では、世尊が象の形で母に抱かれて天から降りて來る所で、侍女が之に侍つてゐるのを見ると、其描寫は、未來の佛陀の清淨な受胎について、最も明かに文獻に説く所を忠實に示してはゐるけれども、決して、敢てそれ以上に出でず、母摩耶夫人に關する歴史的傳説を全く否定する事もなかつたので――之がやがて、佛陀の降誕を現はす中に、摩耶夫人が蓮花の象徴と共に出て來る所以である。――若し、世尊が一婦人から生れた事としても、少くとも懐胎中之を寶櫃に收め、蓮花から滴る萬物の本髓で身を養ひ、其出生も尋常の様でなく、出生するや否やその足跡に蓮花を生じ、二龍王が灌水して母體の不淨を洗つた事になつてゐる。

然しながら、文獻は一通りにして、之を寫してゐる遺物を見る事としよう。慣れた眼には、早速數々の彫刻が解る様になる。塔の古い玉垣には蓮花が多